



ひとり だいたんまこ
1人1台端末は
令和学びの
“スタンダード”



タブレットが
文房具になる
新時代



タブレットとは、タッチパネルのモバイルデバイスのこと。キーボードがなく小型ノートパソコンのように使えるのが特徴です。

そんない しょうがっこう しゅざい おこな
村内4つの小学校に取材を行いました

どうして授業で
タブレットを使うの？

今年の4月より国が進める「GIGAスクール構想」にもとづき、市内の小中学校に一人一台タブレットが導入され、様々な授業で活用されています。

これからの時代は、IoTやAIなどの技術が当たり前になり、新しい価値やサービスが生まれ、暮らしや働き方が変わっていきます。10年、20年後には、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い「子どもたちの多くは将来、今は存在していない職業に就く」とまで言われています。

このように変わっていく社会を生き抜いていく子どもたちのために、学校では、誰一人取り残すことなく一人ひとりに合った学びを提供し、すべての子どもたちの可能性を引き出す教育へと変わりました。

そこで、文部科学省が考えたのが「GIGAスクール構想」です。この構想では、これからの教育に合わせ「一人一台端末を導入し」「通信ネットワーク環境を整える」ことが決められています。

用語解説	IoT(アイオーティー) Internet of Thingsの略で、モノのインターネットという意味があります。冷蔵庫やスピー	カー、照明といったモノをスマートフォンで操作したり、モノの使用状況をスマホで確認したりすることです。	AI(エーアイ) Artificial Intelligenceの略で、人工知能という意味があります。人間の脳ができることをコ	ンピューターに代わりにやってもらう技術です。最近では、SiriやAlexaなどの音声アシスタントが有名です。
------	---	--	---	--

タブレットがあると何が変わるの？

	これまで	これから
一斉学習	先生が板書をしながら子どもたちに説明をする。	子どもたちの画面をリアルタイムで先生の端末に一覧表示し、一人ひとりの反応を把握できる。
個別学習	一人ひとりの理解度に合わせた学びの提供が難しく、全員が同時に同じ内容を学習する。	同時に別々の内容を学習できる。個人の学習履歴が残るので、一人ひとりに合わせた個別学習ができる。
協働学習	グループ発表では可能だが、自分独自の意見が発信しにくい。発表する子が限られる。	一人ひとりの考えをお互いにリアルタイムで共有ができ、意見交換ができる。

タブレットの機種はiPad(10.2インチ第7世代)です。文字を打つ時など、必要な時はキーボードをつなぎます。アプリは、iPadに入っている純正のもの、Googleが提供している教育支援ツール、電子教材プラットフォーム“まなびポケット”などが入っています。





小学校の授業を のぞき見！ どうやって 活用している？

浜鬼志別
調べ学習

教科書だけではわからないことをタブレットを活用して調べています。ペンを使って画像にそのまま書き込みをしたり、見ている画面や画像をリアルタイムで共有できます。また、タブレットを使いながらも、ノートや黒板に書くなどアナログの良さも活かしています。



知来別

作曲

コロナの影響により音楽の授業で歌うことができなくなったため、リズム系の授業にシフトしました。音楽制作ソフトウェアを使い、一人ずつ作曲しています。



漢字の書き順を確認



鬼志別

観察記録

あさがおの成長を観察しています。文章だけでなく、写真を撮ること、成長の過程をよりわかりやすく記録できます。

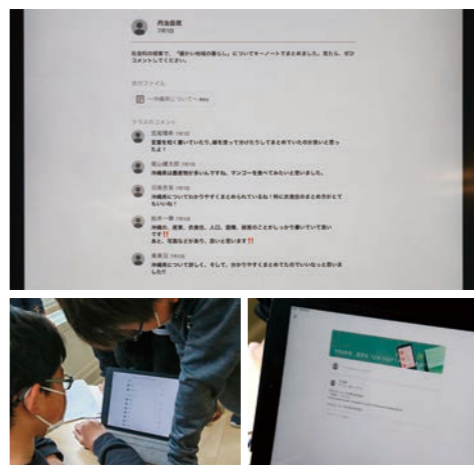


浅茅野・知来別・浜鬼志別

他の学校とつながる

複式学級がある浜鬼志別、知来別、浅茅野小学校の5・6年生でクラスルームというアプリ内でグループを作っています。

授業で作ったまよめの作品や写真をアップして、他の学校の子からコメントをもらうなどして交流しています。



つかわないときは、充電のできる保管庫にしまっています

タブレット、使ってみてどう？ みんなの声



パソコン室にわざわざ行く必要もいから楽になった。

調べ物がすぐに行けたり、データを残すことができたりとても便利。

先生の近くに行かなくてもすぐに見せられる。

壊さないように気をつけたら、ノートよりも管理が大変。

ノートに書くよりも、目が疲れる。

タイピングが難しい。でも、練習してだんだん速くなってきた。

世界の離れた人とビデオ通話をしてみたい。



活用事例を各校と共有するなど、他校とよりつながって簡単にやりとりできるようになりました。子どもたちは、わからないことがあったら自分で考え、それがまた他の子に伝播していくという流れができています。

使うことを目的とせず、考えを深めるための道具として、子ども(個)の学びに活かしていきたいです。導入したばかりなので、今年度は課題を乗り越え、整備しながら進めていきます。

最初は、子どもと一緒にとまどいながらのスタートでした。慣れてからは、授業の時間短縮につながったり、子どもが使っているうちに疑問に感じたことを自分で表現できたりといいことがたくさんありました。今後は、えんぴつとタブレットの使い分けを大切にしていきたいです。また、使うことが得意か不得意かは、人それぞれなので、その差がついていく中で、どうやって教えていくか課題です。

浅茅野小学校 笹子先生に聞きました

どんなことに使った？

浅茅野小学校は1学級の人数が少ないので、学芸会で迫りある器楽演奏が困難でした。そこで、タブレットを利用して、本番に演奏する楽器以外を事前に録音し、少人数でも迫力ある演奏を実現できました。

また、昨年度はオンラインでパナソニックの方に、一か一か動画の作成方法を教わり、今までに20本以上の動画を作成してきました。

使ってみてどう？

今までは、授業で作った作品は学校内でしか見てもらえなかったのですが、他校とつながりたくさんの人に見てもらえるようになって、子どもたちの励みになっています。また、文章だけで考えや気持ちを伝えることの難しさや、子どもたちの道徳的な指導の貴重な機会にもなっています。

メリット・デメリット

作図など言葉で伝えるだけでは不十分な場合に、動画を添えて視覚に訴えることが手軽にできるようになるなど、いいところはたくさんありますが、視力や姿勢など健康面が心配です。

これから

ネットワークが広がって、北海道から全国へと気軽につながる事ができたらいいと思います。また、子どもたちには、良い悪いの線引きを自分たちでできるようなって、便利なものを安全に使いこなせるようになってほしいと思います。

